

NPO法人市民活動情報センター主催

# 第4回教育創生フォーラム -地域が必要とする大学・学校の創生-

## 開催挨拶・趣旨説明 & 基調講演

(2024年3月2日、Zoomウェビナー開催)

NPO法人市民活動情報センター代表理事  
愛知東邦大学経営学部教授

今瀬 政司

# 第1回教育創生フォーラム (2020年10月31日終了)

- テーマ: 人が幸せになる学びと教育の創生をめざして
  - 社会・経済問題の根源は「人」、解決するのも「人」  
⇒「人」の力が弱まる傾向 ⇒「人」の成長が必要
  - 人は何のために「学び」「教育」をするのか
    - 「人が幸せ」になるため、「人を幸せ」にするため
    - この原点がブレると、良い「学び」「教育」はできない
  - 原点に立ち返り、新たなあり方を検討・問題提起
    - ✓ 学びと教育の方法、教育制度、教育機関と企業・行政・NPO等の人材育成、リカレント教育など

# 教育創生フォーラム

—人が幸せになる学びと教育の創生をめざして—

日時：2020年10月31日（土）日程変更、対面からオンライン録画配信に変更

主催：NPO法人市民活動情報センター 参加費：無料

後援：文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
愛知県、名古屋市、愛知東邦大学、人を大切にする経営学会

坂本 光司（人を大切にする経営学会会長、元法政大学大学院教授）  
武藤 久慶（文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長）  
加藤 明彦（愛知中小企業家同友会会長、エイベックス（株）会長）  
今瀬 政司（市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学准教授）



坂本 光司



武藤 久慶



加藤 明彦



今瀬 政司

# 第2回教育創生フォーラム (2022年2月26日終了)

## ● テーマ: 人が幸せになる大学の創生をめざして

### ➤ 「大学」の教育と研究に焦点を当てる

- 最高学府たる大学の「社会的存在意義」が問われ、変化を求められている

### ➤ 第1回フォーラムでの「問題提起」を深掘りして議論

- 「解決の糸口」を探る
- 10年後を目標とした「新たな大学像の創生」をめざす

### ➤ 各登壇者からの講演「問題提起」⇒ ディスカッション

【論点1】人が幸せになる「大学教育の質保証」のあり方

【論点2】人が幸せになる「大学教員」のあり方

【論点3】人が幸せになる「大学経営」のあり方

# 第2回教育創生フォーラム

—人が幸せになる大学の創生をめざして—

日時: 2022年2月26日(土) 対面からオンライン録画配信に変更

主催: 市民活動情報センター 協力: 愛知東邦大学今瀬研究室

後援: 文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
愛知県、名古屋市、人を大切にする経営学会

坂本 光司(人を大切にする経営学会会長、元法政大学大学院教授)  
柿澤 雄二(文部科学省高等教育局企画官(併)高等教育政策室長)  
加藤 明彦(中小企業家同友会全国協議会副会長、エイベックス(株)会長)  
今瀬 政司(市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学准教授)



坂本 光司



柿澤 雄二



加藤 明彦



今瀬 政司

# 第3回教育創生フォーラム (2023年2月23日終了)

- テーマ: 人が育み、仕事を育み、地域を育む学び合いと協働

- 「人が幸せになる学びと教育の創生」のあり方  
(第1回と第2回のフォーラムで検討)をベースに

「地域」での学びと教育に焦点を当てて議論

- 各登壇者からの講演「問題提起」 ⇒ ディスカッション

【論点1】“若者が自らを育む”地域と大学・学校の  
「学び合いと協働」の場や仕組みの創り方

【論点2】“若者が仕事を育む”地域と大学・学校の  
「学び合いと協働」の場や仕組みの創り方

【論点3】“若者が地域を育む”地域と大学・学校の  
「学び合いと協働」の場や仕組みの創り方

# 第3回教育創生フォーラム

—人が育み、仕事を育み、地域を育む学び合いと協働—

日時:2023年2月23日(木・祝) 主催:NPO法人市民活動情報センター

共催:地域活性学会東海支部・離島振興部会、愛知東邦大学今瀬研究室

後援:文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
愛知県、名古屋市、人を大切にする経営学会、日本離島研究会

大江 和彦(島根県海士町長)

柿澤 雄二(文部科学省高等教育局企画官(併)高等教育政策室長)

清水 秀樹(長野県売木村長)

鵜飼 宏成(名古屋市立大学学長補佐・大学院経済学研究科教授)

今瀬 政司(市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学准教授)

吉岡 慎一(市民活動情報センター副代表理事、地域循環共生社会連携協会事業部長)

オンラインZoomウェビナー開催(無料) <http://sicnpo.jp/forum230223/>



大江 和彦



柿澤 雄二



清水 秀樹



鵜飼 宏成



今瀬 政司



吉岡 慎一

# 第4回教育創生フォーラム (2023年3月2日)

- テーマ: 地域が必要とする大学・学校の創生

地域(社会)課題の解決と大学・学校の生き残りが模索される中

➤ 「地域(社会)における大学・学校の存在意義」  
に焦点を当てて議論(講演&ディスカッション)

- 地域(社会)になくてはならない大学・学校とはどのような姿なのか
- 地域の人々が必要不可欠とする「学びの場と仕組み」を創るためのあり方と具現方策



# SIC 第4回教育創生フォーラム

## -地域が必要とする大学・学校の創生-

日時：2024年3月2日(土) 13:30~16:30 Zoomウェビナー開催  
主催：NPO法人市民活動情報センター 共催：地域活性学会東海支部  
後援：文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
愛知県、名古屋市、人を大切にする経営学会、愛知東邦大学

参加申込先（無料）<http://sicnpo.jp/forum240302/>

高見 英樹（文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長）  
山代 寛（沖縄大学学長）  
吹上 康代（名古屋市経済局長）  
加藤 明彦（中小企業家同友会全国協議会副会長、エイベックス(株)会長）  
今瀬 政司（市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学経営学部教授）  
吉岡 慎一（市民活動情報センター副代表理事、地域循環共生社会連携協会事業部長）



高見 英樹



山代 寛



吹上 康代



加藤 明彦



今瀬 政司



吉岡 慎一

# 登壇者と講演テーマ等

- 高見英樹(文部科学省高等教育局企画官(併)高等教育政策室長)  
「地域が必要とする高等教育政策」
  - 山代 寛(沖縄大学学長)  
「地域が必要とする沖大自主存続の歴史に学ぶ大学創生」
  - 吹上康代(名古屋市経済局長)  
「地域が必要とする名古屋市のイノベーション人材育成」
  - 今瀬政司(市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学教授)  
「地域が必要とする大学・学校の創生」※開催趣旨説明
- [パネリスト、コーディネーター]
- 加藤明彦(中小企業家同友会全国協議会副会長、エイベックス会長)
  - 吉岡慎一(市民活動情報センター副代表理事)

# パネルディスカッションの3つの論点

※第1回・第2回・第3回フォーラムの検討を踏まえながら、  
第4回フォーラムでの「各登壇者の取組報告・問題提起等（講演）」  
をベースに、下記3つの論点を柱にして議論

## 【論点1】世界・日本における

社会・産業構造の変化と今後の人材育成のあり方

## 【論点2】社会・産業構造が変化する

今後の地域に必要な大学・学校の姿

## 【論点3】地域社会・産業に必要な

学びの場と仕組みの創り方

※参加者との質疑応答（ZoomウェビナーQ&A機能）も行います

NPO法人市民活動情報センター主催

# 第4回教育創生フォーラム

--地域が必要とする大学・学校の創生--

## 基調講演

# 地域が必要とする大学・学校の創生

(2024年3月2日、Zoomウェビナー開催)

NPO法人市民活動情報センター代表理事  
愛知東邦大学経営学部教授

今瀬 政司

# 地域が必要とする大学・学校の創生①

## ● 高等学校

- **【学校教育法】**(第六章第五十条) 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。(以下略)

## ● 大学

- **【学校教育法】**(第九章第八十三条) 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。(以下略)

- **【教育基本法】**(第七条) 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。(以下略)

# 地域が必要とする大学・学校の創生②(私見)

## 【論点1】世界・日本における社会・産業構造の変化と 今後の人材育成のあり方

### 【現状・課題(例)】

- 社会・産業構造の変化に対して、組織(大学・学校、企業・団体、行政等)の「構造改革」と「体質改革」が不十分  
⇒ 地域(社会)力・経済力・政策力、教育力・研究力・実践力の低下

### 【原因(例)】

- 経営者側(&政府)による「労働者側への責任転嫁」(一部)
  - 「人手不足」でなく「賃金不足」「経営者(&政府)の力量不足」(一部)
- 大学・学校の教職員側による「学生・生徒側への責任転嫁」(一部)

### 【地域(社会)が必要とする人材育成のあり方(提言例)】

- 正しいこと(理想経営)を正しくできる 経営者(&政府)の学び直し

# 地域が必要とする大学・学校の創生③(私見)

## 【論点2】社会・産業構造が変化する

### 今後の地域に必要な大学・学校の姿

#### 【現状・課題(例)】

- 地域(社会)に無いと困ると思われない大学・学校の存在(一部)

#### 【原因(例)】

- 地域(社会)から見えにくい教育・研究の内容・成果の実態(一部)
- 卒業資格以外の価値、学費・時間に見合った「育成力」の不足(一部)
- 高校や専門学校等と同じレベルの大学の教育内容(一部)
- 研究成果による教育と地域(社会)貢献・協働の不足(一部)

#### 【地域に必要な大学・学校の姿(提言例)】

- 約束したこと(理想教育・研究)を約束通りにできる大学・学校教職員
- 最高学府として大学の教育・研究実績の透明化と地域(社会)貢献

# 地域が必要とする大学・学校の創生④(私見)

【論点3】地域社会・産業に必要不可欠な

学びの場と仕組みの創り方

【現状・課題(例)】

- 大学・学校改革の有名無実化(一部)

【原因(例)】

- 大学・学校の自浄能力の不足(一部)
- 社会一般(多様なステークホルダー)による評価システムの不足(一部)

【学びの場と仕組みの創り方(提言例)】

- 学士号「**級別制**」導入と成績評価基準の透明化  
⇒別添
- 教育・研究実態の「**社会的評価システム**」による透明化  
⇒別添



# 地域が必要とする大学・学校の創生⑤(私見)

## ● 学士号「**級別制**」導入と成績評価基準の透明化(提言)

**【学位規則】**(第二条) 学校教育法第百四条第一項の規定による学士の学位の授与は、大学(中略)が、当該大学を卒業した者に対し行うものとする。

### ➤ 学士号「**級別制**」の導入 (例: GPA基準による級別制)

- 「学士1級」(GPA3.0以上)
- 「学士2級」(GPA2.0以上)
- 「学士3級」(GPA2.0未満) ※GPA=Grade Point Average

### ➤ 成績評価基準の透明化

- 各科目の成績評価基準(相対評価(割合)・絶対評価等)のホームページ公開
- 各科目の成績評価結果の統計数値(S・A・B・C・D・K比率等)のホームページ公開

# 地域が必要とする大学・学校の創生⑥(私見)

- 教育・研究実態の「社会的評価システム」による透明化(提言)
  - 「シラバス実施報告書」のホームページ公開
    - ・ 各授業での実施結果・内容、変更点、学習目標達成度等
  - 「通常授業」の教室公開・オンライン公開
    - ・ 各教員半期1回以上
  - 高校教員と大学教員の授業見学交流
    - ・ 高校授業と大学授業の機能分担(違いの明確化)推進
  - 大学資金・公的資金による研究成果ホームページ公開
    - ・ 研究論文、中間報告、学会発表報告、研究の実践活用報告等
  - 事務職員の業務内容・実績の学生・生徒公開
    - ・ 事務職員と学生・生徒の交流促進